センターだより

ぎゅっと！

令和７年度２月号

四天王寺悲田院 児童発達支援センター

子どもたちの目標

「規則的な生活と元気な体づくり」
「意欲的にいろいろなあそびを楽しむ」
「自分のことは自分でする」
「家族以外の人と過ごすことができ、友達と仲良くできる」
「知らない所でもなじむことができる」
「気持ちや感性を適切に表現でき、落ち着いて行動できる」
「自分の意志を伝え、他人の意志を受け止められる」

２日（月）運営協議会　12：00～
７日（土）おやすみ
11 日（祝・水）建国記念の日
14 日（土）おやすみ
16 日（月）避難訓練
21 日（土）おやすみ
23 日（祝・月）天皇誕生日

お知らせ

○実習生が来ます　　クラスに入りましたらよろしくお願いします。
2/16（月）～3/2（月）　四天王寺短期大学　　　保育士　２名

○3 月の主な行事について
・３月 14 日（土）卒園式　　ゆき・ほしクラスの５歳児が対象となります
次年度、就学される卒園児（５歳児）のみを対象とした式典となります。
※他学年の園児はお休みとなります。
式典には平服（セレモニースーツ等）での参列をお願いしております。
卒園式の詳細については、対象の方に２月中旬にお知らせを配布いたします。
・３月 27 日（金）修了の会
今年度の最終療育日となります。各クラスでお別れ会を実施予定です。
詳細につきましては、日が近づきましたら各クラスからお伝えさせていただきます。

○令和８年度　児童発達支援を継続してご利用される方へ・・・
次年度継続利用の方の契約は自動更新とさせて頂きますので、新たな契約書への署名などの必要はありません。

○令和７年度末で卒園・退園される方の医療外来再申込について
児童発達支援を卒園・退園される方は現在受けて頂いている作業療法・言語療法は３月末で終了となります。次年度以降に医療外来の作業療法・言語療法の再開を希望される方は、改めて申込をして頂く必要があります。３月に申込方法についての説明用紙を配布させて頂きますので、ご不明な点は担当療法士にお声掛けください。

○事業に関するアンケートへのご協力を頂き、ありがとうございました

頂戴しました貴重なご意見・ご要望と職員から挙がった意見を集計したものを親の会会長様と副会長様にご覧頂き、1/15 に意見交換会を実施しました。会長様、副会長様から更なるご意見を頂くことができました。今後の事業運営や支援内容の向上、より良いサービスの提供に繋げてまいります。
なお、集計結果は「事業所評価」として、1/31 にセンターホームページに掲載しました。是非、ご覧ください。

○羽曳野市就学相談について
羽曳野市教育委員会より、令和８年度の就学相談の案内が届きました。羽曳野市にお住まいの令和９年４月に就学を迎えるおこさまの保護者の方は、保育棟事務所横掲示板の案内ポスターをご覧ください。

「食べない」のはなんで？
偏食との「なが〜い目で見た」つきあい方

言語聴覚士　小野寺

「食べない」悩み

食事は生活習慣の基本です。また、食事は単に栄養摂取に留まらず、食卓を一緒にするご家族とのコミュニケーションの場でもあり、日々の生活に欠かせないものです。保護者の方からは、お子さんの偏食についてのお悩みをよくお聞きします。「せっかく作ったのに全く食べない」「白いご飯しか食べない」「異なる食品メーカーは食べない」「食べ方や食器にこだわる」など、食行動に関するストレスを感じたり、どうすればよいか困ったりしている保護者の方も多いのではないでしょうか。

食事を「戦場」にしないように

お子さんが「食べない」時の大人の気持ちは非常に辛いものです。ゆえにかもしれませんが、「このままでいいの？」と焦りや不安から、１口食べるのに 30 分格闘する「戦場」のような食事場面になっているという話を聞いたことがあります。その１口をきっかけに食べられるようになることもあるかもしれませんが、逆に食べることを警戒したり、興味を失ったりする場合もあるかもしれません。そのようなことを避けるためには、お子さんの「食べない理由」に目を向ける必要があります。

お子さんによって異なる「食べない理由」

大阪公立大学の立山清美先生の著書では、「食べない理由」に下記のような理由を挙げておられます。

口腔面	咀嚼、飲み込みなど、上手な口の動き
感覚面	味、匂い、食感、温度、見た目、音
認知面	慣れ、見通し、こだわり
環境面	食事場面の雰囲気、介助者、室内の様子など食事内容以外の内容

肉じゃがを例にすると、次のようなことが考えられます。（※説明図　削除）

口腔面	じゃがいもが大きい、肉が飲み込みにくい　→　咀嚼や飲み込みなど口腔面の理由
感覚面	肉と野菜の味が混ざるのが嫌、冷めた肉じゃがは嫌　→　味や温度など感覚面の理由
認知面	家で食べているいつもの料理と異なる　→　慣れ、こだわりなど認知面の理由
環境面	いつもの皿じゃない、席の位置が違う　→　食具・席など食事以外の環境面の理由

上記のように、同じものを食べない場合でも、その理由はお子さんによって異なることがわかります。このように、お子さんの偏食を捉える際は、「食べない理由」を理解することが大切です。

偏食とのつきあい方

「食べない理由」を踏まえた上で、偏食に対してどう対応するかですが、まず「無理に食べさせない」が大前提としてあります。その上で、今回２つの考え方を提案させていただきます。

１）「食べない理由」に応じた対応を実施する。（※説明図　削除）

２）長い目で見て考える。

上記のような対応で、偏食が軽減する場合もありますが、思うようにすすまないこともあります。このような場合、お子さんの認知面や環境面の理由（こだわり）による影響が大きいことがあります。食べられるものの範囲が広がりにくい場合、食べられるものが「白いごはん」など数種類のみということがあります。また食べることができても、食べる組み合わせやメーカーが決まっていることもあります。このような場合は、食事のみで対応しようとするよりも、長期的な視点で変化を見て、遊びや生活習慣を通した興味の広がりなど、日常生活全体の関わりの中で対応した方が無理は少ないかもしれません。

食事場面は、何かを克服する修行の場ではなく、本来楽しい時間を共有する場でもあります。食事では、食べて欲しいものだけで頑張るのではなく、食べられるものを準備し、「食べられるもの＋α」を提供しながら、お子さんのタイミングや時期を待つことも大切な視点になります。「なが〜い目で見て」、親子が無理せず、食事に臨む環境をつくることで、お子さんの食べたい意欲を育むことも、偏食軽減に向けての大切な関わりとなります。

食事に対してどうすればよいか迷われている時は、職員までご相談ください。

参考文献：立山清美（2023）発達が気になる子の偏食の見方と対応